II 令和6（2024）年度 学校評価（自己評価）

栃木県立大田原女子高等学校

校 訓	学びつつ 品位を高め とともに働く			
教育目標	生涯にわたり学び続けながら知徳体の調和のとれた人間性を養い、豊かな人生とよりよい社会を追求し行動できる人間の育成を目指す。			
目指す学校像	『自信を育て潜在能力を引き出す学校』 『主体性を育てる学校』 『品位を重んじる学校』			
目指す生徒像	『夢や志を語る生徒』 『チャレンジし続ける生徒』 『他者の力になれる生徒』			
評価規準	A：達成できた B：やや達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった			
重点項目	1 学習指導 (1) 新教育課程の趣旨・内容に基づく教科指導の実施と研究 (2) 観点別評価の実施と研究 (3) 基礎・基本の徹底と論理的思考力・表現力等を育成する指導の充実 (4) 「総合的な探究の時間」を中心とした横断的・総合的な指導の充実 2 進路指導 (1) 1年次からの系統的・体系的な指導計画の策定と実施 (2) 進路実現のための学力伸長を着実に図る指導の充実 (3) 外部講師や関係団体等を効果的に活用したキャリア教育の推進 3 生徒指導及び特別活動 (1) 生徒の自主性・主体性を育成するホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動等の実施 (2) 生徒の内面を理解し、一人一人を大切にしている指導の実施及び組織的な対応 4 組織的かつ外部との連携を図った学校経営 (1) 各学年・部・係・教科間等との連携の一層の推進 (2) 学校評価等を活用したカリキュラム・マネジメントの実施 (3) PTA・同窓会活動への支援及び各種関係機関・団体等との連携の推進 5 特色化・魅力化の推進と情報の発信 (1) スクールポリシーの策定①アドミッション・ポリシー（求める生徒像）②カリキュラム・ポリシー（教育の方針）③グラデュエーション・ポリシー（卒業時に身に付ける力） (2) 生徒の能力を引き出し社会への関心や視野を広げるための教育活動の工夫・改善 (3) HPの充実と、効果的な情報発信のための工夫・改善 6 安心・安全な学校環境とやりがいい職場づくり (1) 安全・安心を最優先した各種教育活動の推進 (2) 事故の未然防止を図るための計画的かつ日常的な安全点検の実施 (3) 風通しがよく、互いにフォローし合う雰囲気が醸成された職場環境の整備			
部	具体的取組	自己評価	実施と課題	次年度に向けた改善策
【教務部】	○各係と連携しながら、生徒の力を伸ばす行事計画の立案。 ○教員の業務を精選・効率化し、長時間労働の改善を行う。	B	○一日体験学習では在校生が誘導・案内や学校紹介を担当した。生徒の活躍で中学生・保護者から高い評価をいただいた。 ○日課の変更や行事の見直しを行い、多少は長時間労働の改善を進めることができた。課題としては職員の絶対的な仕事量が多く、この点を改善していかない限り長時間労働は減らないと思われる。	○引き続き取り組んでいく。 ○改善の余地があるものに対して、意見を聞きながら引き続き取り組んでいく。
【学習指導部】	○観点別評価に関する事項を含めて、学習指導部に関する内規を見直し、実情に合った内規を作成する。 ○学力の定着や学習習慣の確立に向けて、学習時間調査や学習会を通して、生徒に自覚を促す。	B	○観点別評価に関する内規を作成した。 ○「学習時間入力強化週間」を設けた。また、夏期冬期の学習会で長時間学習への耐性をつけた。が、学習時間の減少傾向を変えることができなかった。	○今後も実情に合った内規の作成に努める。 ○家庭学習実態調査の結果を見ると、家庭でのスマートフォン利用時間が増加し続けており、それが学習時間の減少に影響を与えている。学校だけでは難しいため、家庭への呼びかけを強化し、家庭と協力してスマートフォンをうまく利用できるように指導していきたい。

	○総合的な探究の時間において学校だけでなく地域との連携を強化していくことでより深い探究活動ができるようにする。		○地域でのフィールド・ワークを実施。地域の様々な施設でのインタビューやアンケートなどインターネットの情報だけでなく、実際に自分たちで主体的に探究する活動を実施した。	○生徒がアポイントメントを取ることやインタビュー内容を考えるなど主体的に行動して、探究活動ができた。今後も実施していきたい。
【情報部】	○校務システムの賢者への移行を進め、運用において、各係と連携して支援する。 ○HPの管理を行い、関係職員がコンテンツを更新し情報の発信が充実できるように、を支援する。	B	○委員会・部活動名簿など賢者への移行を行った。作業手順の詳細について、統一化が必要である。 ○HPを充実させることができた。	○作業手順の詳細について、マニュアルの整備を進めていく。 ○引き続き、関係職員への支援を進めてHPを充実させていきたい。
【進路指導部】	○1学年は、文理選択に向けて職業研究をさせる。 ○2学年は、学部・学科研究を進めるためにオープンキャンパスへの参加を促す。 ○3学年は、進路先の決定をさせる。	B	○職業人インタビューを実施。帝京大学でのインターンシップに参加。 ○オープンキャンパスへの参加を夏休み課題に。 ○進路別講話を実施。	○各学年ともゴールである希望職業選択をさせ、逆算的に進路先選択をさせる機会・方法に取り組んでいきたい。
【生徒指導部】	○服装の心得を生徒の意見をとりいれながら見直す。 ○教育相談係が中心となり、不登校傾向の生徒の改善に努める。	B	○服装の心得の一部見直しを実施し、通学時の運動靴の適用範囲を広げた。 ○不登校傾向の生徒の相談に応じ、教室での授業参加時間の確保に努めた。	○服装の心得を含め規定の見直しを進めていきたい。 ○不登校傾向生徒への指導は、関係する職員が協働して支援する体制を整えたい。
【特別活動部】	○各学校行事において、適切な企画・運営のもと、生徒の自主性、主体性を育む。 ○各学校行事や部活動において、生徒の安心・安全を考慮した活動に努める。	B	○各行事で生徒会を中心に企画・運営を行い、生徒が主体的に取り組んだ。 ○暑い時期の行事において、熱中症等の注意喚起をし、安心・安全に努めた。	○生徒が、さらに主体的に行事が行えるように、育ていきたい。 ○近年の暑さを考慮しつつ、行事を実施する場所や時期の検討を重ねていきたい。
【健康指導部】	○安全・安心な学校環境となるように、清掃・安全点検等を強化し、熱中症防止策を徹底する。 ○ヒヤリハット事例を共有し、リスクマネジメント能力を高める。	B	○熱中症防止対策として、各部活動の活動場所全てにWBGT計測器を設置し、活動指針の徹底に努めた。 ○全教職員に危機管理に関する校内研修を学校安全課の指導の下実施した。	○引き続き熱中症対策を徹底して行きたい。 ○避難訓練や心肺蘇生法講習会等を継続して実施し、教員だけでなく生徒のリスクマネジメント能力の向上にも努めたい。
【渉外部】	○PTA相互理解を目指し、生徒がいきいきと活動できる学校づくりを役員とともに検討し連携を図りながら組織の運営の改善に努める。 ○千草会総会、役員会、支部会を通じて、本校教育活動のPRに努めるとともに、学校行事や部活動への援助・協力を求める。	B	○夏季支部会廃止や委員会の精選等、業務のスリム化を図り、保護者と教員の負担を減らす努力ができた。今後は、本校PTAの組織を引き続き見直して、更なる業務内容の改善、系の精選が課題。 ○総会等を無事に行えた。支部会員の高齢化、新規入会者が減少、活動実態がないなど問題がある。 ○郵送でのやり取りが多いがメールでのやり取りを希望している方もいる。	○PTA役員の選出方法や支部会の見直し、系の精選等を、引き続き保護者側と教員側と双方の意見を諮り、ゆとりを持った教育活動がより可能になるように努める。 ○本部役員と連携を図る。入会式で支部のことを生徒へお知らせする。 ○メールでもやり取りができることをお知らせする。